

# 国語科学習指導案

日 時 令和7年7月2日 5校時  
対 象 谷山中学校3年3組39名  
指導者 教 諭 渡 辺 治

## 1 単元名・学習材 『俳句批評tanityu』

(「批評文 観察・分析を通して評価する」三省堂 現代の国語3)

## 2 単元設定の理由

### (1) 単元観

ここでは、学習材「批評文 観察・分析を通して評価する」を『俳句批評tanityu』という単元として設定した。生徒はこれより前に、論説文「間の文化」の学習において、「主張に対する根拠や理由は適切か、偏った考え方ではないかと吟味、評価しながら読む」読み方を学んでいる。また、解説文「俳句の世界」の学習において、俳句のきまりや表現の特徴、読み味わい方を学んでいる。

これらの学習をふまえて、本単元では教師が示した百句の俳句の中から一つの俳句を選び分析した上で、構成を考えたり根拠を明確にしたりしながら批評文を書く活動を設定する。生徒にゴールの意識を明確にもたせ書くことへの意欲を持続させるために、最終的な文章は小冊子『俳句批評tanityu』として製本する予定である。また、これまでの書くことの学習を踏まえながら自分なりの目的意識をもって活動に取り組むことができるように、単元の始めにおいて、どのような批評文を書きたいか、またそのためには何が必要かということを考えさせることとする。

### (2) 生徒観

本学級は、全体的に落ち着いて学習に取り組む雰囲気が見られる。授業において積極的に発言できる生徒は多くないが、ペアやグループでの活動や文章を書く活動などには意欲的に取り組む生徒が多い。

昨年度1月実施の鹿児島学習定着度調査における学年の結果を見ると、全体での通過率が66.2(県66.3)であり、県平均とほぼ同水準であるが、1年次の通過率74.2(県75.9)と比べると、県平均を基準にすれば伸長が見られたと言えよう。1月の結果を見ると、県平均を下回ったのは唯一「書くこと」であり、49.8(県54.2)であった。1年次の57.8(県67.8)を踏まえて、授業において書く活動を積極的に取り入れるなどの取組を行った結果、県平均に近づいてはきているが課題であることには変わらない。

これらのことから、手順書としての「プランニングシート」を作成させ、順を追って批評文の完成に導くことによって、書くことへの抵抗感を減らしたい。また完成したものを小冊子としてまとめることで達成感を感じさせ、書くことの楽しさも実感させたいと考える。なお、それぞれの学習過程においては、ペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、生徒の学びを広げたり深めたりさせていきたい。

### (3) 指導観

生徒は、2年生3学期に絵画の鑑賞文を書く学習に取り組んでいる。鑑賞文とは、たとえば「美しい」「かっこいい」と感じた魅力を読み手に具体的に語る文章である。そこでは、自分が選んだ一枚の絵画について、思考ツールを活用させながら魅力の根拠となる具体的な特徴や感じたこと・想像したことなどを列挙したうえで、二百字程度の鑑賞文にまとめさせた。生徒は具体的な根拠をもとに相手を意識しながら自分の感じた魅力を文章で表現する力を身に付けているはずである。

本単元も同じような学習過程ではあるが、一步踏み込んで、作品のよしあしや特性、価値などについて「判断」し、それを「根拠」をもとに説得力のある言葉で相手に伝える力を身に付けさせたい。そのためには、対象となる作品について、一つの言葉がもつ広い意味を認識したり、作品の特徴や長短を整理したり、比較や仮定などの技法を使って分析したりするなどの作業が必要となる。その際には、思考ツールの活用も有効であると考ええる。

また、ここでは、自分の書く能力や作品への思いなどに応じて批評文の字数を自分で選択させることとする。そのことが、書くことへの抵抗を少なくするとともに、文章の構成に意識を向けるきっかけにもできるのではないかと考える。

### 3 研究の視点

#### (1) ねらいに迫るための手立てについて

##### ア 個別最適な学びや協働的な学びの設定

他の能力と同様に文章を書く能力においても個人差がある。もちろん完成するまで順を追って全体に丁寧な指導をしていくことは必要であるが、個の能力に応じて学習を進めていくことも必要であろう。本単元では、自分なりの目的意識を明確にさせた上で、分析の方法や書く手段、批評文の字数などを自分で選択させ、自分の計画で活動を進めさせることとする。

また、ロイロノートを活用して意見等を共有したり、必要に応じて友人と相談しながら活動を進める場を設定したりして協働的な学びも展開できるようにしたい。

##### イ ICTの活用

2年次の絵画の鑑賞文を書く単元においては、生成AIを推敲の段階で活用することを試みた（別紙参考資料を参照）。このことによって、生徒は生成AIの長所や短所について考えるきっかけをもつことができた。本単元においては、批評文を書く前の計画を立てる段階において、教師が書いた批評文と生成AIが作成した批評文とを比較させたい。これは優劣をつけることが目的ではなく、それぞれの長所や短所を理解した上で、自分はどのような批評文を書くのかを考えさせるためである。日常生活・社会生活の中に生成AIが非常に早いスピードで入ってくる中、国語科としても避けてとおるのではなくその活用法を学ばせる必要性を感じている。

課題となるのは、本時のねらいを達成させるために有効であったかということであるが、そこは他の方々の意見等も参考にして今後の活用法をさらに検討していきたい。

#### (2) 「非認知能力」の向上等につながる自己肯定感や主体性を高める手立てについて

##### ア 学習の見通しと振り返り

本単元においては、批評文作成の手順書（「プランニングシート」）に添付する形式で生徒の目標や振り返りを記入する欄を作成した。第2時の途中からは、自分のペースで批評文の完成をめざすことになるが、各単位時間の終末において、その時間にできたことなどを踏まえて次の時間の目標を立てさせることとする。そのことが生徒自身の主体的な学びにつながり、また自分なりの目標を達成することが自己肯定感の高まりにも寄与するものと考えた。

##### イ 選択の場面の設定

本単元においては、生徒自身が選択をする場面を多く設定している。たとえば批評する俳句の選択、批評文の字数の選択、俳句を分析する思考ツールの選択などである。選択という行為自体が主体性を伴うものであるが、さらに自分の能力や必要に応じてゴールの形や道具を選択することによって、自分だけの学びの過程が形成されることを期待する。

自分で選択した道具や方法で、自分の理想とするゴールに達成することができれば、それは自己肯定感の形成につながるし、途中で試行錯誤しながら自分にあったものを選択し直していくことも、今後につながる大事な学びの場となると考える。

#### 4 単元 の 目 標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。  
 [知識及び技能] (2)ア
- (2) 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ
- (3) 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。  
 「学びに向う力、人間性等」

#### 5 単元 の 評 価 規 準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア	① 「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) ② 「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	粘り強く自分が選んだ俳句を分析したり、構成の仕方を考えたりしながら、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。

#### 6 単元 の 指 導 計 画 (全 6 時 間)

時	10	20	30	40	50
1	漢字(帯)	単元の学習の見通し		批評文を書く俳句の選択	
2 (本時)	漢字(帯)	批評文作成の計画立案 (「プランニングシート」作成)			
3	漢字(帯)				
4	漢字(帯)				
5	漢字(帯)				
6	漢字(帯)	交流	学習の振り返り	まとめ	
<b>【評価場面・方法】</b>					
知識・技能：主に、俳句を分析した思考ツールや完成した批評文の内容から評価する。					
思・判・表：主に、批評文の内容や文章構成、「プランニングシート」と批評文の比較から評価する。					
態 度：主に、第2～5時の学習への取組みの様子や振り返りシートの内容から評価する。					

7 本時の指導計画（2 / 6）

(1) 目標

ア モデル文の比較を通して、自分の理想とする批評文を書くために必要なことについて、自分なりの考えをもつことができる。

イ 学習の見通しをもつために、「プランニングシート」を使って自分なりの計画を立てる。

(2) 本時の実際

時間	主な学習活動	指導にあたっての留意点・評価（★）
【帯单元】漢字・文法をマスターしよう。		
8 (8)	● 漢字小テストに取り組む。	○ 授業準備や漢字の復習等に活用するために、3分の時間を確保する。 ○ 事前に指示を出してあった漢字の中から、書き取り5問の小テストを行う。
1 学習の見通しをもつ。		
5 (13)	● 本時の学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。	○ 本時の学習に見通しがもてるように、前時までの学習を振り返りながら、本時の学習目標を提示する。
どのような批評文を書きたいかを考え、計画を立てよう。		
	● 二つのモデル文を比較しながら活動を進めることを理解する。	○ 批評文とは、どのような文章であったかを再確認する。
2 二つのモデル文を比較し、どのような批評文を書きたいか考える。		
25 (32)	● 二つのモデル文を比較し、どちらがよい批評文だと思うかと、その理由を考える。 ● ロイロノートによいと思った批評文とその理由を投稿する。 ● 個人やグループで、それぞれのモデル文の特徴やよいところ、分かりにくいところなどを話し合う。 ● 個人やグループで、どちらが指導者（生成AI）が書いた批評文であるかを考える。 ● 「プランニングシート」に、どのような批評文を書きたいか（書きたくないか）、そのためには何が必要かをまとめる。	○ 批評文としてよい表現だと思うところや疑問を思うところに線を引かせながら文章を読むことによって、選んだり理由を考えたりしやすいようにする。 ○ それぞれの考えが可視化できるようにロイロノートを使って集計等を行う。 ○ モデル文の優劣を決めるのではなく、自分の理想とする批評文を書くために必要な要素を整理するための活動とする。 ○ 問題点も含めた生成AIの特徴などを補足するために、片方のモデル文は生成AIが作ったものであることを説明する。 ○ 例えば次のような意見が想定される。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独りよがりの意見でなく、だれもが納得できるような批評文を書きたい。</li> <li>・読んだ人が、その俳句の良さに気付けるような批評文を書きたい。</li> <li>・どの俳句にもあてはまるような、面白味のない批評文は書きたくない。</li> <li>・生成AIが書くような批評文は書きたくない。</li> </ul> </div>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明確な根拠</li> <li>・ 分かりやすい段落構成</li> <li>・ 読み手に訴える結論</li> <li>・ 一語一語へのこだわり</li> <li>・ 事実に基づいた分析</li> <li>・ 深い（広い）分析</li> <li>・ 具体的な説明</li> <li>・ 正確な表現</li> <li>・ 豊かなイメージ</li> <li>・ 季語や季節の正確な把握</li> <li>・ 表現技法の理解</li> </ul> <p>★ 自分の理想とする批評文を書くために必要なことについて、自分なりの考えをもっている。 [思・判・表]</p>
<b>3 批評文を作成するための自分なりの計画を立てる。</b>		
7 (45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「プランニングシート」を作成し、批評文作成の計画を立てる。</li> <li>● 「プランニングシート」が完成した生徒は、俳句の分析を始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画立案に時間がかかりすぎないようにするために、教師の「プランニングシート」をモデルとして提示したり、友達との相談を勧めたりする。</li> <li>○ 「プランニングシート」は空欄の部分があったり、途中で変更したりしてもよいことを説明する。</li> <li>★ 学習の見通しをもつために、「プランニングシート」を使って自分なりの計画を立てようとしている。 [態度]</li> </ul>
<b>4 本時の学習を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。</b>		
5 (50)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習で学んだことなどをまとめ、次時の目標を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の振り返りと次時の自分なりの目標を考えさせるために、「プランニングシート」右側の振り返りの欄を活用する。</li> </ul>

## — 参 考 —

### 【生成 AI による批評文】

□ Copilot (6 / 9)

松尾芭蕉の俳句「いくたびも雪の深さを尋ねけり」は、自然の厳しさと人間の好奇心を巧みに描写している。この句は、何度も雪の深さを尋ねる行為を通じて、自然との対話やその美しさへの畏敬の念を表現している。雪の深さを知りたいという気持ちは、単なる物理的な興味だけでなく、自然の神秘に対する探求心をも示している。

この俳句では、「いくたびも」という反復表現が使われており、何度も尋ねる様子を強調している。この表現により、雪の深さを知りたいという強い欲求が伝わってくる。また、「雪の深さ」という具体的なイメージを通じて、読者に視覚的な印象を与えている。雪の深さを尋ねる行為は、自然の厳しさを感じさせると同時に、その美しさをも感じさせる。「尋ねけり」という終止形の使い方も、行為の完了や確定を示し、句全体に落ち着いた雰囲気を与えている。この終止形は、雪の深さを尋ねる行為が何度も繰り返されたことを示

し、自然に対する人間の永遠の好奇心や探求心を象徴している。また、この句は、冬の情景を鮮やかに描写しており、雪の冷たさや静けさが伝わってくるようだ。

この俳句は、シンプルながらも深い意味を持っており、読む者に自然の美しさや厳しさを感じさせる。何度も雪の深さを尋ねる行為は、自然に対する人間の永遠の好奇心や探求心を象徴しているように思える。また、雪の冷たさや静けさが伝わってくるようで、冬の情景が目浮かぶ。この俳句を通じて、芭蕉の自然に対する深い洞察力と感受性が感じられる。

#### □ Copilot (6 / 18)

私は「最も心に訴えてくる句」はどれかという観点で俳句を読み比べ、「いくたびも雪の深さを尋ねけり」を選んだ。この句を読んだとき、静かな冬の風景の中で、作者が何度も雪の深さを気にしている様子が目に浮かんだ。雪の深さを尋ねるという行為には、ただの好奇心だけでなく、旅人としての不安や自然への敬意が込められているように感じた。

この俳句の特徴は、「いくたびも」という言葉の繰り返しにある。何度も尋ねるという表現から、作者の強い思いや切実さが伝わってくる。また、「雪の深さ」という具体的な言葉が、読者に冬の厳しい自然を想像させる。雪が深ければ道は陰しく、旅は困難になる。だからこそ、作者は何度も人に尋ねたのだろう。

終わりの「尋ねけり」は、昔の言葉で「尋ねた」という意味だ。この言葉を使うことで、句に落ち着いた雰囲気生まれている。また、過去の出来事として描かれていることで、作者の旅の一場面が記録のように感じられる。静かな雪景色の中で、作者が人に声をかける姿が、まるで映画のワンシーンのように浮かんでくる。

この句は、自然の美しさと厳しさ、人との関わり、そして旅の孤独を短い言葉で表している。読む人によって、雪の冷たさや静けさ、作者の気持ちがそれぞれ違った形で心に残るだろう。私はこの句を通して、俳句が持つ深い表現力と、言葉の力のすばらしさを改めて感じた。

#### 【生成 AI による評価（推敲）】

あとの批評文を以下の観点で評価してください。

- 観点 1 誤字や脱字、主述の不对応や文の乱れ、分かりにくい表現はないか。
- 観点 2 主張に対する根拠は明確に示されているか。
- 観点 3 根拠に説得力はあるか。
- 観点 4 俳句の季語や季節に誤りはないか。
- 観点 5 段落構成は適切か。

#### 「批評文」

私は「最も心に訴えてくる句」はどれかという観点で俳句を読み比べ、「いくたびも雪の深さを尋ねけり」を選んだ。

「雪」という季語で冬であることは分かるが、さらに「雪の深さ」という表現から、雪が降り続けていることも想像できる。しかし「深さを尋ねけり」とあることから、作者は雪が積もっていることは知っているものの、直接雪を見ることができない状況にあるのではないかと思われる。作者は思うように動くことができない状況、おそらくは病気か何かで寝たきりに近い状態にあるのであろう。そのことを直接表現するのではなく、「深さを尋ねる」という行為で読み手に想像させる作者の表現力はすばらしい。

さらに私は、「いくたびも」という語に注目してみた。「来る客に」や「我が友に」ではいけなかったのだろうか。なぜ何度も尋ねる必要があったのだろうか。私は、その時々雪の深さを知ることによって、作者は雪の降り方も知りたかったのではないかと考えた。急激に雪が降り積もるようであれば、吹雪のような降り方が考えられるし、少しずつ深さが増していくようであれば、静かにゆっくりと降る雪が想像できる。逆に高さが変わらな

かったり低くなったりするようであれば、目が出てきていることも考えられる。つまり、読み手にさまざまな雪の降り方までイメージさせることのできる優れた表現なのである。

このように考えると、病床上で動けない状況にあっても、心の目でその景色を楽しもうとする作者の姿や自然の美にこだわり続ける作者の思いが浮かび上がり、そこに私は心打たれたのである。

観点1：誤字や脱字、主述の不对応や文の乱れ、分かりにくい表現はないか

誤字・脱字：ほとんど見られませんが、「であれば」は「であれば」の誤記と思われます。

主述の不对応・文の乱れ：一部の文が長く、主語と述語の関係がやや不明瞭になる箇所があります。特に「作者は思うように動くことができない状況、おそらくは病気か何かで寝たきりに近い状態にあるのであろう。」の部分は、文を分けるとより明確になります。

分かりにくい表現：「来る客に」や「我が友に」ではいけなかったのだろうか、という問いかけは少し唐突で、文脈のつながりが弱い印象です。

☑ 評価：やや改善の余地あり

観点2：主張に対する根拠は明確に示されているか

「心に訴えてくる句」として選んだ理由が、作者の状況や表現方法に基づいて丁寧に説明されています。

「深さを尋ねる」という行為から作者の状態を推測し、それが心に響いたという主張は明確です。

☑ 評価：明確に示されている

観点3：根拠に説得力はあるか

作者の状況を「雪の深さを尋ねる」という行為から読み取る解釈は、文学的で説得力があります。

「いくたびも」という語に注目し、雪の降り方まで想像を広げる分析も具体的に納得感があります。

☑ 評価：説得力がある

観点4：俳句の季語や季節に誤りはないか

「雪」は冬の代表的な季語であり、季節の解釈に誤りはありません。

季語の意味や背景も適切に理解されています。

☑ 評価：問題なし

観点5：段落構成は適切か

段落は以下のように構成されています：

句の選定理由（導入）

句の内容と作者の状況の分析

語句「いくたびも」の意味の深掘り

全体の感想とまとめ

段落ごとにテーマが明確で、論理的な流れが保たれています。

☑ 評価：適切

総合評価

文章全体としては、句の選定理由とその解釈が深く、読み手に伝わる力のある批評文です。細かな表現の整理や文の構造を少し整えることで、さらに読みやすく、説得力のある文章になるでしょう。